

# 国際交流 Newsletter



編集・発行：白石市国際交流協会事務局（白石市役所まちづくり推進課内） TEL 0224-22-1327 FAX 0224-22-1451

★会員募集中！★ お問い合わせ・お申し込みは協会事務局へ： ☎0224-22-1327 ✉koryu@city.shiroishi.miyagi.jp

## ◆白石市国際交流協会の活動を紹介◆

### 第16回 鬼小十郎まつり

『外国人向け案内ボランティアデスク』を設置

2023年10月7日(土)開催

#### ●案内ボランティアデスク●

外国の方々にもお祭りを少しでも楽しんでもらえるように英訳したプログラムの配布、会場内の案内やお祭りの説明など様々な問い合わせに対応できるように、白石城本丸広場に協会のブースを設置し2015年より活動しています。



▲協会会員5名が参加

▲小中学生のボランティアチームのみなさんと

4年ぶりにコロナ前と同規模での開催となった鬼小十郎まつり。今年は、協会の案内デスクに小中学生のボランティアチームが加わり活気あるものとなりました。彼らの活動をサポートできたことはとてもうれしく、若い方の取り組む姿を見て、とても頼もしく感じました。

外国人に積極的に話しかける絶好の機会であった鬼小十郎まつり。今回は最初の1歩。今後は関係する方々と話し合いながら、お互いによりよい活動ができるようにしていきたいと思います。



▲小中学生のボランティアチームはビブスを着用。

右：背面にはそれぞれ自分たちのメッセージを書きました！



#### ●鬼小十郎まつり●

白石市の一大イベントであるこのおまつりのハイライトは、総勢約120名の武者たちが繰り広げる、『大坂夏の陣～道明寺の戦い～』の再現です。片倉軍(黒甲冑)対真田軍(赤甲冑)の決戦には、多くの外国人が興味をもって観覧していました。迫力ある武者の戦いぶりに圧倒され、“Amazing!!” “Wow～!!”と歓声が上がっていました！



## 第2回 国際理解を深める講演会



～メキシコ合衆国～

2023年8月16日(水)開催@市役所



メキシコのアグアスカリエンテス日本人学校で2017年4月から2020年3月までの3年間教壇に立たれた、白石中学校の教諭である大宮葉子先生を講師にお迎えし、「国際理解を深める講演会」を市役所にて開催しました。

大宮先生からは、メキシコの歴史、文化や習慣、治安、考え方など様々な話題を、写真や映像を交えながらお話しいただきました。講話の一部を紹介したいと思います。

### 基本情報

- 人口:約1億6千万人
  - 面積:日本の約5倍
  - 言語:スペイン語
  - 宗教:カトリック(国民の約70%)
- ※現在成田空港から首都メキシコシティまでの直行便がある。  
往路約13時間。  
復路約15時間弱。

### 国旗について

- 希望
  - カトリックや宗教的な純粋さ
  - 国に殉じた愛国者の血
- 国章:アステカ神話の『湖の中央の岩に生えるサボテンに蛇をくわえた鷲がとまっているところに首都を創設せよ』という予言。

### 古代メキシコ3大文明

- マヤ文明(紀元前から16世紀まで)  
遺跡 チチエン・イツァ(世界遺産)
- テオティワカン文明(紀元前から6世紀まで)  
太陽のピラミッド、月のピラミッド。  
死者の道
- アステカ文明(1428年頃から1521年)  
首都メキシコシティはアステカ帝国の首都だった。

### 生活・習慣

- 水道水は飲めない。石灰分が含まれているため。
- 知らない人同士あいさつする。
- 大きい紙幣は嫌がられる。
- 遅刻が許されるメキシコ時間がある！時間の概念に驚き。  
※宗教行事は時間通り！
- レディファースト。  
女性にやさしい。

### 治安・危機管理

- すぐに「お金」になるものが狙われる。バッグは持たない。
- 行動パターンを変える。
- 車の中にはハンカチ一つ置かない。
- 高価なものは身に着けない。
- スカートははかない。はいたら、タクシーを使う。
- 現地人風をかもしだす。

### 価値観(家族・アミーゴ)

- ～何に人生の価値観を置いているか～
- 仕事よりも家族  
先生の休暇で授業がなくなる。
  - 離職率が高い。  
我慢して働かない。突然来なくなる。
  - ドタキャンあり(友人間)連絡なし。
  - みんな「アミーゴ！友達！」

### ★大宮先生が帰国して感じたこと - 振り返って・・・★

- ◎他人の目を気にせず自分らしくいれる。
- ◎郷に入りては郷に従え。違いを受け入れる。
- ◎カテゴライズしない。“〇〇人だから〇〇でしょ。”ではない。  
人種ではなく、その人の個性・人柄。
- ◎一人一人尊重する。
- ◎言葉を大切にします。
- ◎違いを受け入れる。自分らしく生きる。  
言語を話せば友人も増え文化を知ることができる。

### ★参加者の感想★

《300年間の植民地、スペイン人との混血の人々と融合文化で成り立ってきているということ。》  
《榎本植民団の残った日本人が地域貢献したこと。》  
《異文化を知ることは楽しい。》  
《先住民の文化を大切にすること。》  
《危機管理能力が大切だということ。》  
《メキシコの生活にとってもなじまれてとても感心した。スペイン語もとても勉強されたようですね。やはり言葉は大事で、地元の方やご友人と距離を縮められたのだと察した。》





## 2023 年度オーストラリア友好親善訪問団報告会



2023 年 8 月 16 日 (水) 開催@市役所

- 派遣期間 : 2023 年 7 月 24 日 (月) ~ 8 月 2 日 (水) の 10 日間
- 内 容 : ホームステイ 5 泊、学校体験 2 日間
- 訪問団員 : 市内中学 2 年生 8 名、引率者 2 名

オーストラリアへの派遣は、新型コロナの影響で4年ぶりに実施となりました。

派遣生徒たちは保護者、当協会の武田政春会長ら参加者を前に1人2分の持ち時間で、学校での全体・グループ発表、授業体験、ホームステイで体験したことを報告しました。また、体験を通じて生まれた将来の目標や感想などを写真と映像を使いながら発表しました。



▲2023 年度オーストラリア友好親善訪問団



▼聖ラファエル校中高等部の生徒約 200 名が参加



▲クイズ形式の発表は始めから大盛り上がり！

生徒は、ニュー・サウス・ウェールズ州カウラ市にある聖ラファエル・カトリック・スクールに通う生徒宅にホームステイしながら同校に通い、授業体験と発表を行いました。学校での全体発表について、白石中の庄司茉生さんは、練習時よりも緊張が大きかったが、全員でたくさん準備した成果があった。言語が違う人に対してわかりやすく伝える力がついたと話しました。

グループ活動では、短いフレーズや簡単な単語を使って交流ができ、どのチームも聖ラファエル校の生徒が自分たちの活動に興味をもって体験してくれたことがうれしかったと話してくれました。

※各チームの代表者が報告(書道チーム:白石中の四籠桜さん、茶道チーム:白石中の森理乃さん、折り紙チーム:東中の佐藤皇我さん)





聖ラファエル校の学校と授業の体験についての報告では、白石中の阿部夏実さんは、休み時間の過ごし方、クラス内の席が自由なこと、発表も多く、のびのびと学校生活を送っている等、日本の学校生活との違いを話してくれました。



福岡中の水戸もえさんの報告は、「先生はほとんど電子黒板とホワイトボードを使用し、教科書ではなくワークシートで授業をすすめていた。生徒はシャープペンや鉛筆は使わず青ペンでまとめていた。」と、授業中の様子を話してくれました。また、普通にサッカーをしている時に、バナナなどのフルーツやお菓子を食べていたと驚いた話もしてくれました。



ホームステイについて、東中の石田ゆいさんからは、ホストファミリーの家が広く車が大きかったこと、家では土足 OK、食事前後のあいさつがなかったことなど日本とオーストラリアの家屋の違いや共通点を発見し新鮮な滞在だったと話してくれました。

同じく東中の伊東明咲さんからは、カウラと日本の子どもの絆を深める交流会に参加したこと、羊の農場に行ってミルクを与えたりホストファーザーのお手伝いしたことなど、普段の日本の日常生活では体験できないことをお話してくれました。

★派遣生徒からの感想・今後の目標★

- ・現地の人の英語はとても速かった。
- ・もっと英語を勉強しておけばよかった。
- ・オーストラリアはとても自然が美しかった。
- ・日本には知っていることのできなかったことを知れた。
- ・挑戦することの大切さを知った。
- ・相手の立場になって物事を考えることを心がける。
- ・自分の夢のためにもっと英語力を向上させる。
- ・今回の経験を思い出にとどめず、普段の生活や将来の夢のために生かす。



▲たくさんの思い出を急いで詰め込んで "See you!"

ホワイトストーンジャーナル - 国際交流 Newsletter Vol.188

国際交流ニュースターは「白石市国際交流協会」のホームページで閲覧できます。

<http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/soshiki/17/12532.html>

